



広報

www.jalc.or.jp

第465号

2012年12月10日

月造物

発行／一般社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03(5684)0011 FAX03(5684)0012

本号の主な内容

2、3面 【特集】第6回技術情報共有発表会

3面 【学会の目・眼・芽】第41回 矢幡久氏
自然林復元工法のすすめ

4面 【緑滴】こんな時代だからもっと積極的に!!
高瀬勝彦

命ある風景を生み出す造園

第6回技術情報共有発表会に150人 7つの発表と講評、交流会を開催



小野良平准教授

東日本大震災復興祈念シンポジウム開催

東日本大震災復興祈念シンポジウム開催

な会となるよう努力していきたい」と述べた。

発表会後は、関東・甲信

れ、意見交換を行った。

総支部主催の交流会が行わ

る。

2013新年 1月7日㈪ 18時より

品川プリンスホテルアネックス5階「プリンスホール」
東京都港区高輪4-10-30 ☎ 03-3440-1111

皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください

第6回技術情報共有発表会は10月12日、東京都文京区弥生の東京大学・弥生講堂一条ホールで、約150人の参加を得て開催した。当日は日造協から6つの発表、(公社)日本造園学会から1つの発表と講評がなされ、発表会後は交流会も行った。

発表会は冒頭、藤巻司郎会長があいさつ。「ご承知の通り、造園工事の目的達成は工事完了後の管理などにも工夫が問われておりますが、その技術や知識を共有する場がこれまでなく、平成19年の第1回技術情報共有発表会をきっかけとして、毎年の恒例事業として今日に至っている。本日も、東日本大震災の被災地に根差していたからこそできた取り組みや、鈴木先生からの「造園技術とプロデュースの関係」の講演など

重なお話をいたたく機会を得、会場の東京大学の小野先生には講評をいただこうとしている。この発表会で、さまざまな情報を共有することにより、本日ご来場の皆様が、今後の業務にお役立ていただき、失われつつある緑を創造し、より良い社会環境に貢献できることを祈念している」と述べた。

司会進行は、大場淳一技術委員会技術情報・研修部会委員が行い、早速、発表会が順調に進むことになりました。そこで、毎年開催される「技術情報共有発表会」は、全国都市緑化フェアの開催地で、毎年行っており、「日造協活動についての貴

今年4月からの一般社団法人への移行に当たって理事数の削減が図られ、それに伴って「顧問会議」を設置することとしたところです。

11月1日㈭、その第1回顧問会議が当協会会議室で開催された。

藤巻会長は開会に当たり、「日造協活動についての貴

今年4月からの一般社団法人への移行に当たって理事数の削減が図られ、それに伴って「顧問会議」を設置することとしたところです。

藤巻会長は開会に当たり、「日造協活動についての貴

忌憚ない意見続々

新法人の

移行後初の

顧問会議を開催

今年4月からの一般社団法人への移行に当たって理事数の削減が図られ、それに伴って「顧問会議」を設置することとしたところです。

11月1日㈭、その第1回顧問会議が当協会会議室で開催された。

藤巻会長は開会に当たり、「日造協活動についての貴

今年4月からの一般社団法人への移行に当たって理事数の削減が図られ、それに伴って「顧問会議」を設置することとしたところです。

11月1日㈭、その第1回

顧問会議が当協会会議室で開催された。

藤巻会長は開会に当たり、「日造協活動についての貴

今年4月からの一般社団法人への移行に当たって理事数の削減が図られ、それに伴って「顧問会議」を設置

特集 第6回 技術情報共有発表会 これまで最大の7つの発表 伝統+現在、そして未来へ

**震災の日から花に
出会うまでの30日間**

古積造園土木(株) 古積 昇氏 東北総支部

震災を振り返り、技術的な情報とは言えないが、自らの体験から何かを感じ取つていただければ、地震発生からの30日間についてお話ししたい。

東日本大震災が発生。運転中に想像を絶する揺れに急停車した。目の前のビルのガラスがバリバリと割れ落ち、信号はすべて消え、渋滞が始まった。

会社に戻るとキャビンツはすべて倒れ、足の踏み場がないほどメチャクチャで、ラジオから「荒浜で200人の遺体が…」とのことだった。

震災を経験して、い何が起きているのか、自宅に行くと会社と同じような状況だったが、家族の無事は確認でき、夕方になつて、現場に出ていた職員が次々に戻ってきた。

しかし、海岸近くの現場にいた職員から「助けて」とのメールが届いた。後で聞くと、車で走行中、危険を感じ、民家の屋根に登った直後、津波に巻き込まれた。ガソリン不足の中、救

援物資を運んできた運転手が、戻るだけあればいいと、トラックのタンクから直接燃料を分けてくれた。

しかし、震災から20日が過ぎ、さまざまな支援活動が行われる中、自分の活動はこれでいいのかと、苦悶のうちに花も見せてあげられないとの保育園の先生のお話を聞き、「これだ」と思い、プランターに植えた花を届けると、突然の訪問にもかかわらず、とても喜んでいたとき、その後、被災地に花を届ける活動を続け、小規模だが、復興が終わるまで、続けていきたいと思っている。

鳥取県では、昭和60年の鳥取国体(わかとり国体)を中心、昭和56年から62年に多くの道路整備が進められ、街路樹の成長に伴い、金体として美しい景観となつているものの、一部には問題がある樹木が存在し、物損などの事故も発生していることから、こうした問題のある樹木への早急な対策が求められている。

実際、コウモリガによる虫害、胴枯病、木材腐朽病、樹皮の脱落による邊材の露



発表会のようす（希望の松について発表する米内氏）

第6回技術情報共有発表会は10月12日、東京大 学弥生講堂・一条ホールで開催した（記事1面）。 本号では、日造協の6つの発表、（公社）日本造園 学会の発表と講評発表と講評の概要を紹介します。

陸前高田「希望の松」 保護活動について

（株）米内造園

米内吉榮氏 東北総支部

東日本大震災は陸前高田市の沿岸部市街地の大半を瓦礫に変え、高田松原を流失させた。1年半が過ぎた今でも復旧は一部しか進んでいない。

地震は、いつ発生するかわからず、この陸前高田のような状況に、いつどこが見舞われるかわからない。一番大事なことは、命を守ることであり、その上で、私たち造園人としての使命をどう果たしていくかだ。

今日はその一端として、全国的に有名になった「希望の松」について、紹

介するが、平成24年7月15日より、私たちは、枯死した一本松の取り組みから外れ、大手ディスプレイデザイナー、大手ディスプレイデザイナー、岩手県支部は4月18日に「希望の松」の保護対策の許可を陸前高田市長からいただき、日造協本部、

千葉県支部は4月18日に「希望の松」の保護対策の許可を陸前高田市長からいただき、日造協本部、

（公社）日本造園学会、（財）日本緑化センターの3団体の技術指導で、「希望の松」の樹勢維持・回復及び後継樹確保の2つを目標に掲げ、県内外の関係する多くの団体の協力をいただき、対策を進めてきた。

一般の方々からすれば、日造協会員の皆さんはこの協力者であり、自らの実績として、さまざまな機会に活用していただきたい。

保護対策にあたっては、4月22日に現地に入り、地盤沈下により、汀線が30mあまり近づき、大潮の時には根元まで冠水。さまざまな事情から移植困難であることを確認した。

そのため、現位置での生育持続を第一義的な目標と育成を依頼している住友林業筑波研究所と技術指導をいたいでいる3団体と後継樹の有効活用の提案をしたいと思っている。

今回の「希望の松」は、被災地から多くの課題と教訓を教えてくれ、真の「希望の松」になり得ると確信している。

この結果、丘状の場所は、低コストで可能な土壤改良方法と植樹計画を検討。直根は腐朽枯死し、側根はG1から10～30cm程度の間に伸長していた。

土壤は、現地の地形など

を考慮し、5カ所で①土性、

②土壤硬度、③透水性、

④酸性pH、⑤電気伝導度E

Cについて調査した。

すべて砂土、透水試験優

良、微アルカリ性に近い中性、EC0.1dS/m未満

で肥料分不足が考えられ、

地下水位は、2カ所が70cm

程度、3カ所で100cmで

確認できなかつた。

そこで、現存クロマツの枯損木の根系と土壤を調査

れつつある。

千葉県支部では、社会貢献活動の一環として、千葉県で推進している「法人の森制度」を活用。造園専門業としての知識や人材を活用して、海岸林の有効的な再造林活動をもとに、対策を講じて、植樹活動を行い、海岸林の有効的な再生「造園協会の森」に取り組むこととした。

現地は千葉県長生郡印

町の海岸原有保安林で、雑草が繁茂し、大部分のクロマツは枯死伐採され、残るクロマツも立ち枯れが目立つていた。

保水性や保肥力に乏しく、有機物施用による改善、低

改良方法と植樹計画を検討。

直根は腐朽枯死し、側根はG1から10～30cm程度の間に伸長していた。

土壤は、現地の地形など

を考慮し、5カ所で①土性、

②土壤硬度、③透水性、

④酸性pH、⑤電気伝導度E

Cについて調査した。

すべて砂土、透水試験優

良、微アルカリ性に近い中

性、EC0.1dS/m未満

で肥料分不足が考えられ、

地下水位は、2カ所が70cm

程度、3カ所で100cmで

確認できなかつた。

そこで、湿潤の方が良いと

が、低い場所、水位の高い

所の成長率が高く、初期生

長には、湿潤の方が良いと

いう傾向が見られた。

今回、潮に強い樹種とし

て、タブノキやヤブニッケ

イを選んだものの枯れが予

想以上で、植栽基盤診断士

としての力量アップの必要

性も痛感。今後、見識を広げ、造園力を活かし、地域

の活性化につながる森づく

りを行つていただきたい。

5月から8月の経過観察

で、クロマツの成長率は、

2%から16.91%となつた。

観察から間もないため、有

効なデータとは言えない

が、低い場所、水位の高い

所の成長率が高く、初期生

長には、湿潤の方が良いと

いう傾向が見られた。

今回、潮に強い樹種とし

て、タブノキやヤブニッケ

イを選んだものの枯れが予

想以上で、植栽基盤診断士

としての力量アップの必要

性も痛感。今後、見識を広

げ、造園力を活かし、地域

の活性化につながる森づく

りを行つていただきたい。

5月から8月の経過観察

で、クロマツの成長率は、

2%から16.91%となつた。

観察から間もないため、有

効なデータとは言えない

が、低い場所、水位の高い

所の成長率が高く、初期生

長には、湿潤の方が良いと

いう傾向が見られた。

今回、潮に強い樹種とし

て、タブノキやヤブニッケ

イを選んだものの枯れが予

想以上で、植栽基盤診断士

としての力量アップの必要

性も痛感。今後、見識を広

げ、造園力を活かし、地域

の活性化につながる森づく

りを行つていただきたい。

5月から8月の経過観察

で、クロマツの成長率は、

2%から16.91%となつた。

観察から間もないため、有

効なデータとは言えない

が、低い場所、水位の高い

所の成長率が高く、初期生

長には、湿潤の方が良いと

いう傾向が見られた。

今回、潮に強い樹種とし

て、タブノキやヤブニッケ

イを選んだものの枯れが予

想以上で、植栽基盤診断士

としての力量アップの必要

性も痛感。今後、見識を広

げ、造園力を活かし、地域

の活性化につながる森づく

りを行つていただきたい。

5月から8月の経過観察

で、クロマツの成長率は、

2%から16.91%となつた。

観察から間もないため、有

効なデータとは言えない

が、低い場所、水位の高い

所の成長率が高く、初期生

長には、湿潤の方が良いと

いう傾向が見られた。

今回、潮に強い樹種とし

て、タブノキやヤブニッケ

イを選んだものの枯れが予

想以上で、植栽基盤診断士

としての力量アップの必要

性も痛感。今後、見識を広

げ、造園力を活かし、地域

の活性化につながる森づく

りを行つていただきたい。

5月から8月の経過観察

仮設住宅内での修景を実施 建仁寺垣の車止め設置 福島県支部

去る10月25、26日に当県支部は、福島県本宮市内の高木応急仮設住宅団地内に、建仁寺垣で作成した車止め7基を設置いたしました(写真)。

この仮設住宅団地は、原発事故により帰還困難区域に指定された双葉郡浪江町の方々の団地であり、長引く仮設生活へ何か貢献できました(写真)。



ないか、と自治会長に相談したところ、車止めの効果と癒し空間の創出を兼ねた景観を求められました。一日も早い帰村を願わざにはいられません。

(福島県支部・事務局)

今後は管理業務の拡大を

東北総支部・支部交流会を開催

東北総支部・支部交流会は11月7日、本部から藤巻会長、佐々木副会長、高梨常任顧問、本間事務局長、野村技術調査部長を迎えて、43名の東北総支部・支部会員が参加して、実施した。交流会では総支部・支部から、Q入札時から大きく変わってしまう最終変更や

東北総支部・支部交流会は11月7日、本部から藤巻会長、佐々木副会長、高梨常任顧問、本間事務局長、野村技術調査部長を迎えて、43名の東北総支部・支部会員が参加して、実施した。交流会では総支部・支部から、Q入札時から大きく変わってしまう最終変更や

Qが業態変更等事業転換支援策を打ち出す中、業界

との回答がなされた。

そのほか、Q公共事業の

削減、民間需要の低迷で、

造園業の出番がないこと、

Qが業態変更等事業転換支援策を打ち出す中、業界

との回答がなされた。

Q公共事業の

削減、民間需要の低迷で、